

琉球大学学術リポジトリ

石川友紀教授の人と業績

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2010-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 町田, 宗博, Machida, Munehiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/15708

石川友紀教授の人と業績

町 田 宗 博

石川友紀教授は、沖縄における移民研究の父と言っても過言ではあるまい。日本における移民研究の礎を築かれた一人であり、斯界における功績はきわめて大きい。

石川友紀教授は、昭和44年3月広島大学大学院文学研究科博士課程の単位を取得し、同年11月琉球大学法文学部講師に採用された。昭和47年4月助教授、昭和59年4月教授に昇任し、今日に至るまで34年余にわたって研究、教育、大学行政に携り、今年定年退官の節目を迎えられた。この間、昭和61年から2年間琉球大学評議員、平成10年11月から2年間琉球大学附属図書館長、平成15年12月から初代の琉球大学移民研究センター長を務めている。

研究の面では多数の論稿を発表し、その一部を『日本移民の地理学的研究』として刊行したほか、昭和57年には広島大学から文学博士を授与されている。この日本の大学からの文学博士の取得は、沖縄では初めてのものと思われる。一連の論稿は昭和50年のハワイ移民調査を嚆矢として、文部省科学研究費海外学術調査などによるブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリビアの南米、アメリカ合衆国・カナダの北米、旧南洋群島のミクロネシアにおけるフィールド調査を踏まえたものである。かつて日本地理学会の席上で、石川教授を「日本における出移民の権威」として言及した研究者がいたことを筆者は記憶している。また、日本移民学会でも平成3年創設当初から運営委員として活躍されている。このように人文地理学の視点に立脚した移民に関する石川教授の研究は、歴史学や社会学などの隣接諸科学からも高い評価を受け、日本における移民研究の第一人者としての地位を築いてきた。

講義では、1980年代初頭まで「地図実習」を担当され、入学後まもない若き地理学徒の指導にあられた。統計書を用いた沖縄における人口のドットマップ図の作成や、フィールドでの農業土地利用図の作成や商業地の路線図作成、電話帳を使用した商業調査など、初めて地理学に接した学生にとってたいへん印象深い経験として卒業生にも語られている。「社会地理学」「ハワイ地誌」「ラテンアメリカ地誌」「地理学特殊講義」など、移民研究の知識を生かされ、海外調査で撮影したスライドも活用された。「野外巡検」や「野外調査」も、赤嶺康成教授、仲松弥秀教授、田里友哲教授の後を受け担当なされた。これら先学の経験を学生に紹介するとともに、移民研究の成果もフィールドで語った。野外でのバスの走行中に特定の家を指し「この家は移民に出た〇〇さんの家で・・・」という話を鮮明に記憶していると、ある卒業生は語る。また、1995年からは大学院の講義も担当され、海外も含めた何名かの移民研究者を育てておられる。

学内における諸活動として特筆すべきことは、1972年の沖縄の日本復帰の年、言い換えると、琉球大学が国立大学として文部省へ移管される前後に琉球大学教授職員会の役員をなされたことである。職員の待遇や諸制度など未知な部分も多いなかで、情報収集や職員の集会を開催するため奔走されたようである。その後1990年には教授職員会の会長も務められた。

学外における貢献もめざましく、昭和48年の沖縄県海外協会の理事就任をはじめとし、神戸移住研究会委員、金武町国際交流拠点整備基本構想策定委員会委員を歴任後、現在、沖縄県立図書館協議会委員、沖縄県公文書館友の会評議員、日本移民学会運営委員、沖縄地理学会評議員、会長等の要職に就いている。さらに、名護市、南風原町、佐敷町、嘉手納町、玉城村、糸満市、北谷町における地方史誌の「移民・出稼ぎ」編などの委員あるいは委員長を務めておられる。

教授の人となりは謹厳実直そのものであり、几帳面であるが、神経質ではない。スポーツ観戦が好きなようで、高校野球の時期など、仕事の合間にテ

レビのある部屋でよく足を止めておられた。教授の生家は、首里赤田の伝統ある泡盛の造り酒屋だったようだ。首里城の直下で、お住まいも現在そこだ。しかし、教授は酒をほとんどたしなまれない。ただ、酒の場での語らいは嫌いではないようで、お茶など飲みながら談笑しているのが常である。学生とのコンパで、広島大学仕込みのデカンショ節を歌うのを1・2度聞いたことがある。

石川教授の論文はコクヨの400字詰、うす緑色で印刷された横罫の原稿用紙を使う。これにボールペンで原稿を書く。仕上げはたいへんに早い。しかし字がたいへん読みづらい。運筆が速い分、読み手がこれについていけない。教授の論文清書を手伝う学生は、教授の手書きの文章を読めるようになって、一人前と認められる。

教授は、豊富な海外調査歴を持っておられる。海外調査においては、カメラ2台とテープレコーダ、ボールペンと野帳が教授の必須アイテムである。テープレコーダは聞き取りに用い、カメラの1台はプリント用、1台はスライド用だ。撮影ではこの2台が常に併用される。ハワイ・アメリカ本土・パルー・アルゼンチン・ボリビア・ブラジルなどの移住地と、日本人移民一世の顔を撮り続け、生活史を記録してこられた。このなかには現在世界された方も多く、今となっては貴重な記録となった。これらの記録は、今後の移民研究に活用すべく、琉球大学移民研究センターで保管している。

石川教授は調査中、聞き取りにおいても日常においても、ボールペンと野帳を手から離さず常にメモを取る。これは、フィールドワーカーの常ではあるが、これほどメモを取る人を、筆者は他に知らない。さらに、調査が終わった夕食後に、一日の成果をノートにまとめていくのが、教授の調査の一日のようだ。これらも貴重な移民記録であり、後日公表していただければ幸いである。

石川友紀教授は移民一路に歩まれてきた学者である。これまでのご労苦に対し、深甚なる感謝を申し上げるとともに、今後とも道を拓き、後進を指導していただくことを願ってやまない。

石川友紀教授略歴及び主要著作目録

<略 歴>

- 昭和14年2月11日 沖縄県那覇市首里にて出生
昭和39年3月 広島大学文学部史学科卒業
昭和41年3月 広島大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和44年3月 広島大学大学院文学研究科博士課程地理学専攻単位取得
満期退学
昭和57年1月 文学博士（文博乙第961号）学位取得（広島大学）

<職 歴>

- 昭和44年8月 国際大学非常勤講師
昭和44年10月 琉球大学非常勤講師（法文学部地理学科）
昭和44年11月 琉球大学講師（法文学部地理学科）
昭和47年4月 琉球大学助教授（法文学部史学科）
昭和59年4月 琉球大学教授（法文学部）
昭和61年4月 琉球大学評議員
平成7年4月 琉球大学大学院人文社会科学研究科担当
平成10年11月 琉球大学附属図書館長に併任
平成10年11月 琉球大学評議員
平成15年12月 琉球大学移民研究センター長に併任
平成16年3月 定年により退官

<学会等>

- 昭和35年10月 日本地理学会会員（現在に至る）
昭和36年10月 地理科学学会会員（現在に至る）
昭和39年4月 人文地理学会会員（現在に至る）

- 昭和45年4月 歴史地理学会会員（現在に至る）
昭和54年4月 日本ラテンアメリカ学会会員（現在に至る）
昭和57年8月 沖縄地理学会会員（現在に至る、評議員・会長）
平成3年10月 日本移民学会会員（現在に至る、運営委員）
平成12年4月 日本島嶼学会会員（現在に至る）

<学外活動等>

- 昭和48年4月 沖縄県海外協会理事（平成元年3月まで）
昭和53年5月 沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員（現在に至る）
平成3年7月 名護市史専門部会（移民・出稼ぎ編）委員（現在に至る）
平成3年11月 南風原町史編集委員会委員・同専門部会（移民・出稼ぎ編）委員（委員長）（現在に至る）
平成5年6月 佐敷町史編集委員会委員・同専門部会（移民編）委員（委員長）（現在に至る）
平成5年12月 嘉手納町史編纂戦後資料編専門部会委員（移民・戦中・戦後資料編）（平成15年6月まで）
平成7年4月 広島大学大学院国際協力研究科講師併任（平成8年3月31日まで）
平成7年10月 広島大学文学部講師併任（平成8年3月31日まで）
平成8年4月 広島大学大学院国際協力研究科講師併任（平成9年3月31日まで）
平成9年4月 広島大学大学院国際協力研究科講師併任（平成10年3月31日まで）
平成10年4月 広島大学大学院国際協力研究科講師併任（平成11年4月1日まで）
平成11年1月 玉城村史専門部会（移民編）委員（現在に至る）
平成11年4月 糸満市史編集委員会委員・同専門部会（移民・出稼ぎ資料編）

委員（現在に至る）

- 平成11年8月 北谷町史専門部会（移民・出稼ぎ編）委員（現在に至る）
平成11年8月 沖縄県立図書館協議会委員（現在に至る）
平成12年10月 沖縄県公文書館友の会評議員（現在に至る）
平成13年4月 名桜大学大学院国際文化研究科非常勤講師（現在に至る）
平成14年1月 神戸移住研究会委員（平成14年3月まで）
平成14年2月 金武町国際交流拠点整備基本構想策定委員会委員（平成14年3月まで）

<主要著作目録>

- 1967年2月 広島県南部口田村契約移民の社会地理学的考察 史学研究、99
1967年2月 広島湾岸地御前村契約移民の社会地理学的考察 人文地理、19-1
1967年6月 山口県大島郡久賀村初期ハワイ契約移民の社会地理学的考察
地理科学、7
1968年5月 沖縄出移民の歴史とその要因の考察 史学研究、103
1968年9月 海外移民と国内移住-沖縄勝連村浜比嘉島比嘉の場合- 地理学
評論、41-9
1969年5月 統計よりみた日本出移民-第1報- 地理科学、11
1970年2月 沖縄自由移民の社会地理学的考察-旧首里市の場合を例として-
人文地理、22-1
1970年4月 日本出移民史における移民会社と契約移民について 琉球大学
法文学部紀要、社会篇、14
1970年12月 統計よりみた日本出移民-第2報- 地理科学、14
1972年2月 統計よりみた日本出移民-第3報- 地理科学、16
1972年2月 日本出移民の時期区分について 琉球大学法文学部紀要、社会

篇、16

- 1972年3月 移民本質論序説(1) 地理科学の諸問題
- 1973年8月 第2次世界大戦前の沖縄県からの出稼ぎについて 人文地理、
25-4
- 1974年3月 第1章 総説、第3章 海外移民の展開 沖縄県史、7、移民
- 1974年10月 琉球-その海洋民的性格- 日本の海洋民
- 1975年4月 瀬戸内地域からの(出)移民 史学研究、126
- 1976年3月 沖縄県国頭郡金武村における出移民の社会地理学的考察 琉球
大学法文学部紀要、史学・地理学篇、19
- 1977年6月 ハワイにおける初期沖縄県移民一世の歴史地理学的考察 史学
研究、136
- 1977年6月 第二次世界大戦前の沖縄県における海外移民教育について 海
外教育、6
- 1977年7月 フィジー諸島における日本人契約移民(1894-1895)について-
広島県移民を例として-移住研究、14
- 1978年3月 沖縄県における出移民の特色-第2次世界大戦前を中心として-
琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、21
- 1979年1月 沖縄県移民の特色 歴史公論、5-1
- 1979年6月 海外移住の歴史的要因 海外移住の意義を求めて-日本人の海
外移住に関するシンポジウム-
- 1980年3月 ブラジルにおける沖縄県出身移民の分布について-母村との地
縁的関連をとおして- 西村嘉助先生退官記念地理学論文集
- 1980年6月 沖縄と移民、沖縄県移民に関する文献紹介 新沖縄文学、45
- 1982年3月 地割制残存の島-沖縄県島尻郡知念村久高島からの移民 地域-
その文化と自然
- 1982年3月 ベルーにおける沖縄県出身契約移民の空間移動と職業の変遷-
初回契約移民を中心として- 琉球大学法文学部紀要、史学・

地理学篇、25

- 1983年3月 西インド仏領ガドロープ島における日本人契約移民（1894-1900）について-広島県出身移民を例として- 移住研究、20
- 1983年3月 アルゼンチンにおける沖縄県出身自由移民の職業構成の変遷について-分析と考察を中心に- 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、26
- 1984年10月 ベルーにおける沖縄県出身自由移民の都市集中と職業構成の変遷 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、27・28合併号（米盛徳市と共著）
- 1984年12月 当山久三と沖縄移民（その1） 国際おきなわ、8
- 1985年2月 「日系移民研究」の視点から「アジア移民とは何か-比較アジア移民学の課題と方法-」 名古屋大学文学部
- 1985年3月 当山久三と沖縄移民（その2） 国際おきなわ、9
- 1985年8月 移民を通してみた近代沖縄研究 地方史研究、196
- 1986年3月 4. ブラジルにおける沖縄県出身移民の集団形成-サンパウロ市ピーラカロン地区の場合- 南米における沖縄県出身移民に関する地理学的研究（Ⅱ）-ポリビア・ブラジル（町田宗博と共著）
- 1986年6月 ハワイにおける日本移民の職業構成の変遷と空間移動 ハワイ日本人官約移民百周年記念講演集
- 1986年6月 日本移民研究のための基礎試論汎、1
- 1986年6月 三 沖縄県から東南アジアへの移民の歴史 地域からの国際交流
- 1986年9月 ポリビア国コロニアオキナワ移民の再移住に関する実証的考察 沖縄地理、1
- 1987年3月 ブラジル国サンパウロ市カーザベルデ地区における沖縄県出身移民の分布と職業構成 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学

- 篇、30（町田宗博と共著）
- 1987年1月 ペルーにおける日本移民の特色-その二、三の考察、沖縄県出身移民を例として- ペルー移民75周年記念誌
- 1987年6月 移民と国際交流-東南アジアへの沖縄県出身移民を例として- 新沖縄文学、72
- 1987年10月 海外沖縄移民社会の歴史と実態-概説をかねて- 海外おきなわ最新情報
- 1988年3月 ブラジル国サンパウロ市ビーラカロン地区における沖縄県出身移民の分布と職業構成 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、31（町田宗博と共著）
- 1988年11月 第3章 移民 北谷町史、6
- 1989年3月 沖縄県国頭郡旧羽地村における地割制の廃止と出移民-字仲尾次を事例として- 沖縄県立図書館史料編集室紀要、14
- 1989年3月 ブラジルにおける日本移民の地域的分布と職業構成の変遷-第二次世界大戦前を中心に- 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、32
- 1991年2月 ペルー日系人社会の歴史と実態 地理、36-2
- 1991年3月 第5章第1節 海外移民ほか 宜野座村誌1・通史編
- 1991年3月 南米における沖縄県出身移民に関する地理学的研究・第1次-第3次調査の回顧 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、34
- 1991年3月 山口県大島郡東和町における出移民の歴史地理学的考察 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、34
- 1991年3月 第二次世界大戦前における沖縄県からフィリピン群島への移民の歴史と実態 神・村・人-琉球弧論叢
- 1992年1月 沖縄県における農村の変容に関する地理学的研究 「亜熱帯島嶼性環境に関する研究」報告書

- 1992年3月 ポリビアにおける日本移民の地域的分布と職業構成の変遷-第二次世界大戦前を中心に- 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、35
- 1992年4月 The Geographical Distribution of Emigrants by Place of Origin : The Case of Okinawa Status Influences in Third World Labor Markets (平恒次と共著)
- 1992年6月 I. 移民送出地域、II. 移民受入地域、ほか 国頭村海外移民史、本編
- 1992年10月 12. 海洋民・移民としての沖縄県人 熱い心の島-サンゴ礁の風土誌
- 1993年9月 第2章 移民・出稼ぎ 上勢頭誌、中巻Ⅱ
- 1994年3月 那覇市における出移民の歴史と実態-第二次世界大戦前を中心として- 琉球大学法文学部紀要、史学・地理学篇、37
- 1995年3月 ポリビア・オキナワ移住地形成への琉球政府計画移民の経緯-初年度移民を事例として- 琉球大学法文学部紀要、地域・社会科学系篇、1
- 1996年3月 第1章 沖縄県の移民、第3章 ブラジル、第5章 アルゼンチン、ほか 金武町史、1巻、移民・本編
- 1996年5月 I2B個別、広島・山口・沖縄、I7 沖縄県における移民研究の現状 日本の移民研究-動向と目録-
- 1997年2月 日本移民の地理学的研究 榕樹書林
- 1997年3月 南米における沖縄移民の特色-食文化の維持と変容- 第26回沖縄県学校給食研究協議会大会報告書
- 1997年12月 南風原町の地理、南風原町の人口 南風原町史、2巻、自然・地理資料編
- 1998年9月 第4章第4節 国策としての移民、ほか なは・女のあしあと、那覇女性史・近代編

- 1998年12月 移民研究の現状と課題-移民送出側の視点から- 移民研究年報、
5
- 2000年3月 沖縄県移民の父・當山久三に関する文献目録 人間科学、5
- 2000年10月 沖縄の移民 特別展日系移民1世紀展
- 2001年3月 第1章 北中城村における海外移民の歴史と実態、第6章 北
中城村出身者の海外移民体験記録 北中城村史、3巻、移民・
本編
- 2001年3月 沖縄移民展開の背景と足跡 南島文化、23
- 2001年10月 第1章 西原町における海外移民の概説、ほか 西原町史、6、
西原の移民記録
- 2002年5月 第5節第1章 移民・植民、ほか 社会と文化、名護市史、本
編7
- 2003年1月 南米における沖縄県出身移民に関する地理学的研究-一世の地
域的分布と職業構成を中心に- 歴史地理学、45-1
- 2003年2月 9章 昭和初期の沖縄県移民の特色と教育 在外子弟教育の研
究
- 2003年3月 第二次世界大戦前南米ペルー・ブラジル・アルゼンチン・ボリ
ビア・チリへの日本人移民の渡航経過と職業構成（Ⅰ） 人間
科学、11
- 2003年5月 第1章第2節 第二次世界大戦前の大里村における移民の実態
とその背景、ほか 大里村史、移民本編
- 2003年9月 第二次世界大戦前南米ペルー・ブラジル・アルゼンチン・ボリ
ビア・チリへの日本人移民の渡航経過と職業構成（Ⅱ） 人間
科学、12
- 2004年3月 南米沖縄移民一世のライフコースと世代の継承 移民研究年報、
10
- 2004年3月 旧南洋群島における沖縄県出身移民に関する歴史地理学的研究、
琉球大学法文学部